

## 衛生指導課 NEWS

### 韓国における豚コレラの発生について

韓国では、平成14年4月及び5月に各1戸の発生がありました。その後発生の報告はありませんでしたが、10月から11月16日現在では表のとおり7戸の農場で豚コレラの発生が確認されました。

発生農場は、北朝鮮との国境付近の仁川広域市江華島及び京畿道金浦市の7農場で6,436頭飼養中、21頭が死亡、残り6,415頭が殺処分され、近隣農場を含め16農場11,923頭全て殺処分されました。

韓国ではワクチン使用は禁止されており、発生農場を中心とした半径3kmの地域を防御地域とし、半径10kmの地域を監視地域として、感受性家畜の移動制限地域に指定し、摘発・淘汰方式で対処しています。感染経路は調査中でありです。

なお、韓国からの偶蹄類の動物、偶蹄類動物の肉及び臓器並びにこれらを原料とするハム、ソーセージ及びベーコンについては、平成14年5月4日から輸入禁止措置をとっています。

#### 発生概要

件数	確定日	発生場所	動物種	飼育頭数 (農家数)	死亡 頭数	殺処分頭数(農家数)		
						合計頭数	発生農場	近隣農場
1	10月8日	仁川広域市江華島	豚	1,326(1)	3	1,336(3)	1,323	13(2)
2	10月13日	//	豚	1,374(1)	3	4,245(4)	1,371	2,874(3)
3	10月15日	//	豚	153(1)	10	450(2)	143	307(1)
4	10月22日	京畿道金浦市	豚	894(1)	5	903(2)	889	14(1)
5	11月1日	仁川広域市江華島	豚	371(1)	0	371(1)	371	0
6	11月14日	//	豚	1,160(1)	0	1,160(1)	1,160	0
7	11月16日	京畿道金浦市	豚	1,158(1)	0	3,458(3)	1,158	2,300(2)
合	計			6,436(7)	21	11,923(16)	6,415	5,508(9)

#### 韓国における豚コレラの発生場所



### イタリアにおける鳥インフルエンザ(家きんペスト)の発生について

昨年以來、中国(香港、マカオ)、韓国及びアメリカで発生が報告されています。

本年10月23日、イタリア北部のロンバルディア地方の七面鳥農場において、鳥インフルエンザ(家きんペスト)の発生があり、我が国では本病の侵入防止に万全を期するため、輸入されるイタリア産家きん肉等は、23日以降輸入を一時停止しています。

なお、同地方における6戸の七面鳥農場での血液検査により、トリインフルエンザウイルス(血清亜型H7N3)が確認されました。現在は発生農場を中心とした移動制限措置及び発生農場の全羽数殺処分が講じられているとのことであります。

鳥インフルエンザ(家きんペスト)は、本ウイルスの感染による呼吸器病です。鶏では、呼吸器症状、下痢、産卵低下、顔面腫脹などであり、症状は弱いものから非常に強い症状を示すものもあることから、家きんペストとして家畜伝染病予防法に基づく法定伝染病に規定されています。我が国では昭和元年以降、家きんペストの発生報告はなく、現在は動物検疫により本病の侵入防止に万全を期しています。

### 米国及びカナダでの、西ナイルウイルス感染症の発生について (人畜共通伝染病)

北米大陸では、西ナイルウイルス感染症での死亡者が急激に増加しています。

平成14年10月3日現在、米国及びカナダにおいて西ナイルウイルス感染症で137人が死亡したと報告されています。

西ナイルウイルス感染症は、日本脳炎に類似し人や馬から他の人や馬には直接感染することはありませんが、蚊の吸血媒介により、人、馬及び鳥類に感染することが知られています。

馬は感染しても発症率は低く、重篤化することはありません。耐過した場合は健康に戻ります。

つきましては、米国、カナダへ渡航される場合は蚊に刺されないように、長袖及び長ズボンを着用する等注意して下さい。また、虫除け剤を使用する場合は有害なものもありますので、使用上の注意をよく読んでから使用して下さい。

## オーエスキー病野外ウイルス 抗体調査結果について

農水省衛生課がとりまとめた平成13年度調査結果によると、平成13年度において野外ウイルスが摘発されたのは、東北、関東及び九州の3ブロックに限られています。また、と畜場検査及び農場検査の陽性率は、平成12年度と比較し、東北、九州はやや減少し、関東はほぼ横ばいとなっています。

平成13年度の抗体検査結果も踏まえ、農水省衛生課は今後も陽性豚の計画的な淘汰、確実なワクチン接種等オーエスキー病清浄化対策事業の一層の徹底に務めることが必要としています。

新潟県でも表に示したとおり、と畜場検査及び農場検査を実施しておりますがいずれも陰性で、本県への侵入を防止しています。今後も侵入防止対策として、導入豚の抗体検査並びに隔離検疫を強化するとともに、農場及びと畜場での抗体検査を継続する必要があります。

### (1) と畜場検査

(単位:頭、%)

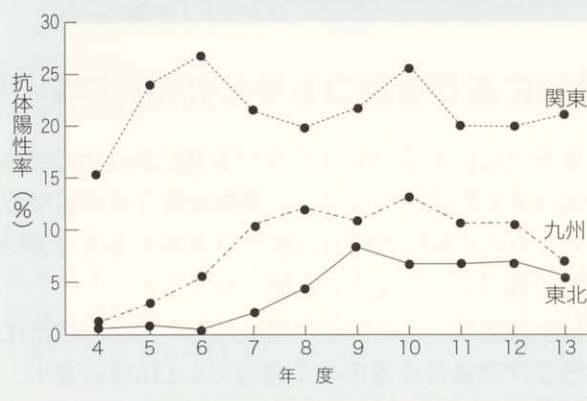
区分	平成11年度		平成12年度		平成13年度	
	検査頭数	陽性率	検査頭数	陽性率	検査頭数	陽性率
北海道	5,533	0	5,058	0	3,862	0
東北	7,808	6.1	9,699	6.1	6,541	4.3
関東	8,256	19.2	8,770	19.2	8,381	21.3
北陸	2,723	0	3,276	0	2,160	0
東海	2,195	0	906	0	218	0
近畿	570	0	758	0	290	0
中国四国	5,163	0	4,264	0	4,899	0
九州	11,748	9.8	11,240	9.6	9,991	5.2
沖縄	0	—	0	—	0	—
合計	43,996	7.3	43,971	7.3	36,342	7.1

### 新潟県

(単位:頭、%)

平成11年度		平成12年度		平成13年度	
検査頭数	陽性率	検査頭数	陽性率	検査頭数	陽性率
1,840	0	1,786	0	1,565	0

### と畜場抗体陽性率の推移



区分	平成11年度		平成12年度		平成13年度		
	検査数	陽性率	検査数	陽性率	検査数	陽性率	
北海道	頭数	3,365	0	3,444	0	2,174	0
	戸数	348	0	373	0	243	0
東北	頭数	35,831	1.3	33,202	1.4	24,940	0.5
	戸数	1,556	4.9	1,315	3.7	887	2.9
関東	頭数	37,079	7.2	33,762	7.0	24,826	6.0
	戸数	1,733	16.7	1,742	18.0	1,228	16.9
北陸	頭数	10,243	0	8,408	0	9,035	0
	戸数	607	0	503	0	353	0
東海	頭数	22,934	0	20,787	0	19,367	0
	戸数	1,415	0	1,335	0	1,365	0
近畿	頭数	4,218	0	4,203	0	3,465	0
	戸数	321	0	331	0	242	0
中国四国	頭数	25,945	0	23,615	0	20,853	0
	戸数	1,047	0	867	0	533	0
九州	頭数	33,363	2.7	28,336	3.1	15,950	0.2
	戸数	2,108	5.1	1,984	4.7	970	0.3
沖縄	頭数	847	0	782	0	641	0
	戸数	89	0	64	0	63	0
合計	頭数	173,825	2.3	156,539	2.4	121,251	1.3
	戸数	9,224	5.1	8,514	5.3	5,879	4.0

### 新潟県

(単位:頭、%)

区分	平成11年度		平成12年度		平成13年度	
	検査頭数	陽性率	検査頭数	陽性率	検査頭数	陽性率
頭数	7,365	0	6,825	0	6,732	0
戸数	474	0	422	0	253	0